

ヒロシマ・ピース・センターだより

2022年

No.29



ヒロシマ・ピース・センターは、平和へのさまざまな願いを込めて、本年も「谷本清平和賞」の贈呈式を開催いたします。第34回目の「谷本清平和賞」は、特定非営利活動法人「ANT-Hiroshima」理事長の渡部朋子氏に決定しました。被爆二世でもある渡部氏は、被爆地広島を拠点に国際理解や平和教育を実践し、被爆体験の継承と国内外への発信、核廃絶運動など、恒久平和の実現を目指し、多彩な活動の先頭に立ってこられました。文字どおり「一人一人の力はANT（アリ）のように小さくとも、大きな平和を実現できる」との信念の具現化に積極的に取り組んでおられます。

また、贈呈式と併せて開催している外国人留学生による日本語の「世界平和弁論大会」は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により2年連続して中止しましたが、本年第31回目として大会を開催します。令和4年2月24日にロシアがウクライナへの軍事進攻を開始し、さらにはプーチン大統領が、核兵器の使用を含むあらゆる手段でロシアの領土を防衛する旨の発言があるなど、国際秩序に深刻な打撃を与えています。「ヒロシマ」で学ぶ若者たちが平和への思いを深め、世界中に発信継承されることを願い、一日も早く「世界平和」を迎えられることを祈念しています。本財団は、これからも時代の要請に基づいた平和活動推進に、微力ながらも尽力していく所存です。皆様のご支援ご鞭撻をよろしくお願い致します。

理事長 鶴 衛

【本財団のおいたち】



財団創立者
谷本 清
(1909～1986)

本財団が創立された基本的精神は、原爆をうけた広島に生存者が尊い生命を犠牲にした人々を思い、世界人類に対して恒久平和を念願することこそ広島に課せられた責務であるという信念に基づいています。被爆直後、悲嘆にくれた広島に視察して被爆者を取材し、核兵器に対する憤りと被爆者への愛といたわりで綴ったアメリカ従軍記者ジョン・ハーシー氏による名著「ヒロシマ」によって、被爆地広島への関心は広がり、高まりをみせました。

こうした時の1948年、谷本清氏（元：日本基督教団広島流川教会牧師）は、メソジスト教会ミッション・ボードの招きを受け、原爆による被爆の体験をもってアメリカを歴訪。15カ月の間31州、256都市、472団体において“被爆の惨状と平和の尊さ”を訴えました。

「ヒロシマ・ピース・センター」という名前は、この訴えに呼応してアメリカで生れ被爆地広島に継承され、広く世界平和の運動を推進する母体として1950（昭和25）年8月8日、財団法人として認可されました。谷本清氏は、本財団創立以来理事長を務め、再三にわたってアメリカに渡り、原爆乙女の治療をはじめ精神養子縁組等の事業を実現し、国内外で“恒久平和の実現と人類の福祉増進”を図ってきました。

【谷本清平和賞】と【世界平和弁論大会】

1986年に谷本清氏の後を受けた二代目理事長鶴襄氏（学校法人鶴学園創立者）は、谷本清氏の偉業を祈念し、恒久平和の実現と原爆体験の風化を食い止めるために貢献した人（団体）を顕彰し、より一層平和構築への推進力となつていただくことを願い、「谷本清平和賞」を創設しました。1987年ノーマン・カズンズ氏の第1回受賞をはじめ、昨年の「川崎哲」氏の受賞まで33回の表彰をしてきました。

また、鶴襄氏は、若人たちが世界平和に対する関心を高め、国境を越えて平和実現のために手をつないでほしいとの願いから、1990年に第1回「世界平和弁論大会」を開催しました。こうした鶴襄氏の遺志は、谷本清平和賞と世界平和弁論大会を「国際平和の集い」として、本財団の基幹事業として今日まで受け継がれています。



谷本清平和賞
世界平和弁論大会
創設者
鶴 襄
(1915～2006)

【歴代理事長】

谷本 清	1950年～1986年	(1950.8.8 就任)
鶴 襄	1986年～2002年	(1986.4.1 就任)
橋本 榮一	2002年～2005年	(2002.9.7 就任)
鶴 衛	2005年～	(2005.4.26 就任)

公益財団法人ヒロシマ・ピース・センター

〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1の1
広島工業大学内
TEL (082) 921-4149
FAX (082) 921-6979

公益財団法人
ヒロシマ・ピース・センター

谷本清平和賞

第33回谷本清平和賞 受賞者 川崎 哲 氏 (授与式 2021年11月14日)



【受賞理由】NGOピースポートによる「おりづるプロジェクト」や核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）の活動を通じて広島や長崎の被爆者の証言を世界に発信してこられました。こうした取り組みの積み重ねが国際世論を動かし、核兵器禁止条約の成立と発効やICANのノーベル平和賞受賞にも寄与しました。全ての国が核兵器禁止条約に加わるよう現在も精力的に行動を続けておられます。よって、谷本清平和賞の趣旨に則り顕彰することとなりました。

第32回谷本清平和賞 受賞者 アーサー・ビナード 氏 (授与式 2020年11月8日)



【受賞理由】詩人絵本作家として常に物事の本質に近づきながら生命の尊さに向き合い日本語での制作や翻訳を続けられています。広島市へ移住された後は、ヒロシマに関する絵本や紙芝居など多くの作品を発表されました。教育現場や市民集会にも積極的に出向かれ、多彩な創作活動を通じて被爆体験の伝承や核時代に生きる意味を掘り下げ、核兵器の恐ろしさを説き恒久平和の実現を深く熱く訴え続けられています。よって、谷本清平和賞の趣旨に則り顕彰することとなりました。

第31回谷本清平和賞 受賞者 矢川光則 氏 (授与式 2019年11月17日)



【受賞理由】調律師として古いピアノを再生し福祉施設等に寄贈する奉仕活動を始められ、この活動を重ねる中で被爆ピアノと出会い被爆体験者との関わりを持たれるようになりました。原爆の爆風や熱線により傷ついた被爆ピアノを蘇らせ、その音色を多くの人に聞いてもらい、平和を考えるきっかけにしてほしいと、自らがトラックを運転し、全国各地で被爆ピアノコンサートの活動を長年続けられています。よって、谷本清平和賞の趣旨に則り顕彰することとなりました。

谷本清平和賞の受賞者・団体

第1回 1987年	ノーマン・カズンズ氏	第18回 2006年	学校法人広島女学院
第2回 1988年	フロイト・シュモー氏	第19回 2007年	在韓被爆者渡日治療広島委員会
第3回 1990年	栗原貞子氏	第20回 2008年	高橋昭博氏
第4回 1991年	森瀧市郎氏	第21回 2009年	平野伸人氏
第5回 1992年	今堀誠二氏	第22回 2010年	夏の会
第6回 1994年	ジョン・ハーシー氏	第23回 2011年	坪井 直氏
第7回 1995年	ヒロシマを語る会	第24回 2012年	碓井静照氏
第8回 1996年	金 信煥氏	第25回 2013年	小倉桂子氏
第9回 1997年	村井志摩子氏	第26回 2014年	サーロー節子氏
第10回 1998年	江口 保氏	第27回 2015年	秋葉忠利氏
第11回 1999年	伊藤隆弘氏	第28回 2016年	ピーターソンひろみ氏
第12回 2000年	ワールド・フレンドシップ・センター	第29回 2017年	公益財団法人原爆の図丸木美術館
第13回 2001年	河本一郎氏	第30回 2018年	森瀧春子氏
第14回 2002年	中沢啓治氏	第31回 2019年	矢川光則氏
第15回 2003年	吉永小百合氏	第32回 2020年	アーサー・ビナード氏
第16回 2004年	平岡 敬氏	第33回 2021年	川崎 哲氏
第17回 2005年	新藤兼人氏		

平和コンサート (2021年11月14日)

被爆により傷だらけになりながらも奇跡的に残り、修復された「被爆ヴァイオリン」と「被爆ピアノ」を奏でる平和コンサートを、谷本清平和賞贈呈式に併せて開催しました。修復された楽器の音色は「戦争の恐ろしさ」と「平和」の大切さを私たちに教えてくれる「証言」といえます。”原爆”を歌った合唱曲「原爆を許すまじ」の演奏では、参加者の多くが一緒に口ずさみ、平和を祈念されていました。



安塚かのんさん (ヴァイオリン) 久貞祐子さん (ピアノ)

パルチコフさんのヴァイオリン (広島女学院所蔵)

ロシア革命を逃れて来日し広島女学院の音楽教師になったセルゲイ・パルチコフさんのもので、広島市内の自宅で家族とともに被爆しました。広島女学院に寄贈され、修復後に日本や世界各地で演奏されています。

ミサコのピアノ (矢川ピアノ工房所蔵)

広島市千田町 (爆心地より約1.8km) の民家で被爆しました。被爆して壊れた家の中でガラスの傷を数多く受けていましたが、所有者から調律師矢川光則氏へ託されました。絵本「ミサコの被爆ピアノ」「ヒロシマのピアノ」の2冊のモデルにもなりました。

日本語による世界平和弁論大会

----- 最優秀賞の受賞者 -----

第1回 1990年	王 志松さん (中国)	第16回 2005年	任 麗潔さん (中国)
第2回 1991年	カン・マンさん (インド)	第17回 2006年	ジャルワン・ティンクンさん (タイ)
第3回 1992年	アリン・チャワン・ワイさん (マレーシア)	第18回 2007年	エセジャン・アビジャさん (ガブラスタン)
第4回 1993年	栄 勇さん (中国)	第19回 2008年	カンディ・ハラス・リヤさん (スリランカ)
第5回 1994年	アン・セシルさん (フランス)	第20回 2009年	ルハダヤ・エドネ・ネットさん (モンゴル)
第6回 1995年	アリン・チャム・チャイットさん (タイ)	第21回 2010年	ヌルダナ・アティルハワさん (ガブラスタン)
第7回 1996年	ハリシア・オスさん (ベネズエラ)	第22回 2011年	アシカ・エフ・アビナさん (ガブラスタン)
第8回 1997年	フルット・フェイスさん (中国)	第23回 2012年	スマイル・マデ・イケンさん (ガブラスタン)
第9回 1998年	アリン・マカマさん (オーストラリア)	第24回 2013年	ザ・バ・初スさん (ドイツ)
第10回 1999年	刘 艶さん (中国)	第25回 2014年	任 欣雨さん (中国)
第11回 2000年	リキ・ブドリさん (インドネシア)	第26回 2015年	ノバート・コリアさん (ドイツ)
第12回 2001年	ボン・ペドロ・メド・サさん (コロンビア)	第27回 2016年	ウナー・ウァー・ナニコさん (スロバキア)
第13回 2002年	朴 紅梅さん (中国)	第28回 2017年	フランシスカ・レペさん (チリ)
第14回 2003年	クリ・スミスさん (アメリカ)	第29回 2018年	ヴァルチ・コヴァー・ペトラさん (スロバキア)
第15回 2004年	スガティエー・チャトルさん (タイ)	第30回 2019年	カール・スティアン・カンテリスさん (スウェーデン)